

これだけは知っておきたい歯科用金属アレルギー

歯科治療では、義歯や詰め物に金属を使用することが多く、この歯科用金属はその物性を向上するため数種類の金属から出来ている合金で多くの種類があります。これらの金属は薬事法等によって承認されており、多くの人には特に問題となりませんが、金属アレルギーの方や、アトピー性皮膚炎や掌蹠膿疱症など難治性の皮膚疾患をお持ちの方では、歯科用金属の使用によって症状が悪化する場合があります。お口の中の義歯や詰め物の金属から溶け出た金属イオンが口腔粘膜由来の蛋白質と結合して、もしくは金属が直接免疫細胞と結合してアレルギー反応が起こり、お口の中の症状だけでなく顔や全身にさまざまな皮膚、粘膜の病変を引き起こすことがあります。

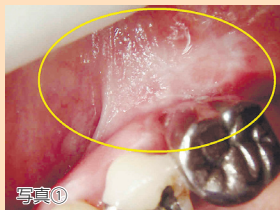
歯科材料、特に歯科用金属によるアレルギーが引き起こす代表的な疾患

● 顔面・口の中の疾患

□ 内炎、歯肉炎、□唇炎、舌炎、□腔内扁平苔癬(こうくうないへんぺいたいせん)、□腔粘膜における慢性の角化異常を伴う病変のひとつ(写真①)などです。

● 全身の疾患

全身性接触皮膚炎ともいい、経皮感作された個体において、経口、経気道的に摂取されたアレルギー(アレルギーを引き起こす物質)が血流により散布され、到達した遠隔の皮膚でアレルギー反応



を発現するといわれています。アトピー性皮膚炎、接触性皮膚炎、扁平苔癬、汎発性湿疹(写真②)、脱毛症、掌蹠膿疱症(しよつせきのうほうしよつ、手のひら・足の裏、またはその近辺にできる小さな水疱)などが関係するといわれています。



どのような方が歯科用金属アレルギーを起こしやすいか?

金属アレルギーの方、アトピー性皮膚炎や掌蹠膿疱症など難治性の皮膚疾患をお持ちの方で、歯科治療後に皮膚や粘膜に症状が発現したり、悪化した場合は歯科用金属との関連性が強いと言えます。また、扁平苔癬の原因は、感染症、薬剤、金属アレルギーが関係すると考えられており、その中でも特にお口の中に発症する□腔内扁平苔癬の患者さんのお口の中から歯科用金属を除去した場合には、かなりの高率で症状が軽快するという報告があります。

しかし、歯科治療後にこれらの症状が出たからといって、必ずしも歯科用金属だけが原因とは限りません。アトピー性皮膚炎や掌蹠膿疱症など難治性の皮膚疾患は多因子疾患といい、いくつもの原因が重なって起こると言われています。そのため皮膚科でのパッチテストなどの検査により歯科用金属が原因として疑われる場合は、歯科医院にご相談ください。

茨城新聞 2016/03/18

